

# 震災からの新生

## コンサルの貢献

ドーコンは、震災当日の3月11日夕方には札幌市の本社内に副社長を本部長とする東日本大震災対策本部を立ち上げ、仙台市の東北支店と連携して復旧・復興に向けた支援体制を整えた。早々に取りかかったのは、東北管内で同社が設計を担当した構造物の緊急点検や被災調査。宮城県内の国道346号品井沼大橋の被災調査や福島県内の国道6号にかかる62橋の緊急点検など、国土交通省東北地方整備局や県などの要請に即座に対応した。

こうした緊急対応に加え、三陸縦貫道の未事業化区間については津波被害を想定した道路構造の見直し作業を進める。また、同社が設計したユアテックスタジアム仙台の復旧も担当している。サッカー・Jリーグのベガルタ仙台が本拠地とするこのスタジアムは仙

台復興のシンボルともいえる施設だ。

### ハード・ソフト両面で自然災ノウハウ蓄積

同社はこれまで、北海道内を中心に過去の自然災害でさまざまな経験と実

績を積み重ねてきた。特に、北海道南西沖地震による津波災害や有珠山の噴火災害などでは、河川や道路の復旧、上下水道の耐震化、農地の防災対策、防災公園の整備から、被災した市街地の復旧や移転にかかわる都市計画の策定、避難計画のマスタープランづくりまで、ハード・ソフト両面で多くの技術とノウハウを蓄積している。

つ。樺澤本部長は「積雪寒冷地である北海道ならでは技術が今後、被災地で大きく役立つと思う。当社の得意とする技術でぜひ貢献したい」と意気込みをみせる。このほかにも、永久アンカーを打ち込むことで下水道マンホールの浮き上がりを防ぐ技術(特許取得済み)など、独自技術のメニューも豊富だ。

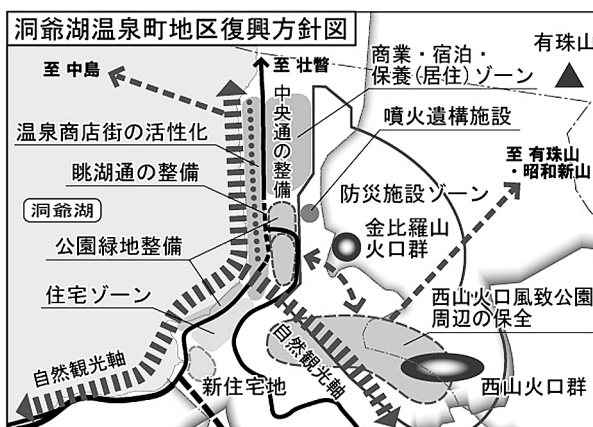
### 都市計画づくりにも積極参加

被災地の復興に向けた都市計画づくりにも積極的に参画したい考えだ。「有珠山の噴火で被害を受けた虻田町(現洞爺湖町)の復興計画で得たノウハウなどを結集して、災害に強い街づくりを提案していきたい。特に災害発生時の避難計画づくりでは、自動車を利用した避難のルールや住民の防災意識の向上、地域別の防災マップの作成など、取り組むべき課題は山積み。さまざまな災害対策を経験してきたドーコンだからこそお手伝いできることがある」(樺澤本部長)。

(おわり) 池田靖、柴田健二、橋本文文、藤井忍、松浦直

## ドーコン

有珠山の噴火で被災した洞爺湖町の復興方針図  
ドーコンが策定を担当した



## 積雪寒冷地ならではの技術で貢献

また、今後想定される冬季の低温・雪害・凍害対策には自信を持

